

Leçon 18



Point

ポイントはマーカーでチェックしておきましょう。



Check

チェックのところは、モニターを見ながら書き込みをしましょう。

Leçon 18 のメニュー

1. 接続法現在

【自律学習コーナー】

1. 接続法現在（つづき）
2. 接続法過去

1. 接続法現在

今まで勉強してきたいろいろな動詞の活用形は、「直説法」と「命令法」の活用でした。この課ではあらたに「接続法」の形と用法をマスターすることにしましょう。まず接続法はどこで使うのでしょうか？



Point

接続法は、従属節内（que ～）で使うのです。

Tu **es** avec moi.

きみは私といっしょにいる。

Je suis heureux que tu **sois** avec moi.

きみがいっしょにいてくれると私はうれしい。

接続法を使うのは従属節内なのですが、従属節内ならいつでも接続法を使うというわけではありません。



Point

従属節内で直説法と接続法のどちらを使うかは、従属節がどのような表現によって導かれているかによって決められるのです。

Je suis heureux que tu **sois** avec moi.

きみがいっしょにいてくれると私はうれしい。

J'espère que tu **viens** avec moi.
きみがいっしょに来てくれるといいなあ。

接続法の作り方 (1) 原則

はじめに接続法の活用について見てみましょう。接続法の活用形はどのようにして作るのでしょうか？活用語尾と語幹にわけて見ていきます。まずは活用語尾です。

Check 接続法の活用語尾

接続法の活用語尾は、

danser の接続法現在

je dans	nous dans
tu dans	vous dans
il/elle dans	ils/elles dans

接続法現在の活用語尾は、実は ...と同じです。

Check 接続法の活用語尾

1. je, tu, il/elle, ils/elles の活用語尾 (-e, -es, -e, -ent) ;

の活用語尾と同じ

2. nous, vous の活用語尾 (-ions, -iez) ;

の活用語尾と同じ

じ

danser の直説法現在

je danse	nous dansons
tu dances	vous dansez
il/elle danse	ils/elles dansent

danser の直説法半過去

je dansais	nous dansions
tu dansais	vous dansiez

il/elle dansait	ils/elles dansaient
--------------------	------------------------

確認練習：L18-1-1 (Exercice 1)

確認練習：L18-1-2

接続法の活用語尾はもう大丈夫ですね。今度は語幹について見ていきましょう。



接続法現在形の語幹は、直説法現在 3 人称複数 (ils/elles) の語幹と同じになります。



finir の接続法現在

je e	nous ions
tu es	vous iez
il/elle e	ils/elles ent

finir の直説法現在

je finis	nous finissons
tu finis	vous finissez
il/elle finit	ils/elles finissent

確認練習：L18-1-3

確認練習：L18-1-4

今度は prendre の接続法現在の活用形の語幹を見ていきましょう。



prendre の nous と vous の接続法現在形の語幹は、直説法現在 1・2 人称複数 (nous/vous) の語幹と同じになります。



prendre の接続法現在

je e	nous ions
-----------------	----------------------

tu	es	vous	iez
il/elle	e	ils/elles	ent

prendre の直説法現在

je	prends	nous	prenons
tu	prends	vous	prenez
il/elle	prend	ils/elles	prennent

接続法現在の nous と vous の活用形を見て何か気づきましたか？



nous と vous の接続法現在形は、直説法半過去活用形と同じになります。

prendre の接続法現在

je	prenne	nous	prenions
tu	prennes	vous	preniez
il/elle	prenne	ils/elles	prennent

prendre の直説法半過去

je	prenais	nous	prenions
tu	prenais	vous	preniez
il/elle	prenait	ils/elles	prenaient

結局、接続法現在の活用形についてまとめると次のようになります。



接続法の作り方 まとめ

1. je, tu, il/elle, ils/elles の活用形；

2. nous, vous の活用形；

danser の接続法現在

je	danse	nous	dansions
tu	dances	vous	dansiez
il/elle	danse	ils/elles	dansent

finir の接続法現在

je finisse	nous finissions
tu finisses	vous finissiez
il/elle finisse	ils/elles finissent

prendre の接続法現在

je prenne	nous prenions
tu prennes	vous preniez
il/elle prenne	ils/elles prennent

確認練習 : L18-1-5 (Exercice 2)

確認練習 : L18-1-6

確認練習 : L18-1-7

確認練習 : L18-1-8

用法

ここからは接続法の用法について見ていきます。その前に次のことをもう一度確認しておきましょう。



- 1) 接続法は,
- 2) 直説法と接続法のどちらを使うかは,

Je suis heureux que tu sois avec moi.

きみがいっしょにいてくれると私はうれしい。

J'espère que tu viens avec moi.

きみがいっしょに来てくれるといいなあ。

どの表現の後で接続法を使うかは大きく 2 つに分けることができます。



1) 主節の表現（動詞、形容詞など）による場合

主節が

Je suis heureux que tu avec moi.

きみがいっしょにいてくれると私はうれしい。



2) 従属節を導く表現（接続詞句，前置詞句）による場合

従属節を導く接続詞句や前置詞句が，

Il a parlé lentement **pour qu'elle** .

彼は彼女が理解できるようにゆっくりと話した。

それでは，1) の「主節が願望，必要性，可能性，疑惑，心配，感情をあらわすとき」からマスターしていきましょう。



接続法をとる「願望（命令）」をあらわす主な表現

que ...	「～したい」
que ...	「～を願う」
que ...	「～を望む」
que...	「～が好き，してもらいたい」
que...	「～を求める」
que ...	「～を強く求める」
que ...	「～するように言う」

Je veux que tu deviennes ma femme.

きみが僕の妻になってくれたらなあ。

Luc demande qu'on le comprenne bien.

リュックは私たちが彼の言うことをよく理解することを求めている。

確認練習：L18-1-9 (Exercice 3)

もっと知りたい！ Quelques infos en plus!

que 節が使えない場合

従属節内で接続法をとる動詞でも，主節の主語と従属節の主語が同じときには，ふつうは不定詞構文を用います。

私は皿洗いをしたいのですが。

○ Je voudrais faire la vaisselle.

× **Je** voudrais que **je** fasse la vaisselle.

主節の主語と従属節の主語が異なる場合は，もちろん que 節を使います。

Je voudrais que tu fasse la vaisselle.

私はきみに皿洗いをしてもらいたいののですが。

1) の「主節が願望，必要性，可能性，疑惑，心配，感情をあらわすとき」の続きです。



接続法をとる「必要性」をあらわす主な表現

que ...	「～しなければならない」
que ...	「～する必要がある」
que ...	「～するほうがいい」

Maintenant **il faut** vraiment **que** j'y aille.

今，私は本当に（そこへ）行かなければなりません。

(II) **vaut mieux qu'**on se quitte.

私たちは別れたほうがいい。

次は，可能性をあらわすときについてです。



接続法をとる「可能性」をあらわす主な表現

que ...	「～かもしれない，ありえる」
que ...	「～はできない，ありえない」

que ...	「～はまれである」
que ...	「～かもしれない、ありえる」
que ...	「～することがある」
que ...	「～あるらしい」

Il est possible qu'il pleuve demain.

明日は雨が降るかもしれない。

Il arrive qu'il neige en octobre, mais c'est assez rare.

10月に雪が降ることもあるが、かなりまれだ。

先生、質問！

そんなことはありません。接続法をとる非人称表現もあれば、そうでないものもあります。非人称でも接続法をとるのは、「願望、必要性、可能性、疑惑、心配、感情」をあらわす表現に限られます。そのような意味を持っていない非人称表現では、接続法ではなく直説法を使います。

Il est évident qu'il a tort.

彼が間違っているのは明らかだ。

しかし、否定的な意味になると接続法をとります。

Il n'est pas évident qu'il ait tort.

彼が間違っているかどうかは明らかではない。

1) の「主節が願望、必要性、可能性、疑惑、心配、感情をあらわすとき」の続きです。



接続法をとる「疑惑」をあらわす主な表現

que ...	「～を疑っている」
que ...	「～は疑わしい」
que ...	「～は確かではない」

Elle **doute que** ce médicament soit efficace.

彼女はこの薬が効くかどうかを疑っている。

Il est douteux qu'il fasse beau demain.

明日晴れるかどうかは疑わしい。

Ce n'est pas sûr qu'elle sache la vérité.

彼女が真実を知っているかどうかは確かではない。

こんどは、心配をあらわすときについてです。



接続法をとる「可能性」をあらわす主な表現

que ...

「～を心配する」

que ...

「～を心配する」

J'ai peur qu'il (ne) pleuve.

雨が降るのではないかと心配だ。

Je crains qu'il (ne) soit malade.

彼が病気ではないかと心配だ。

先生、質問！

Je crains qu'il ne soit malade. の ne は何ですか？

この ne は「虚辞の ne」と言われるもので、否定の意味はありません。虚辞の ne は、この例のように主節が「心配」をあらわす動詞のときに従属節内で用いられます。日本語でも同じような言い方（「～ではないか」）をするから、なぜ虚辞の ne が用いられるかはなんとなく理解できますね。

Je crains qu'il ne soit malade.

彼が病気ではないかと心配だ。

J'ai peur qu'il ne pleuve.

雨が降るのではないかと心配だ。

しかし、話し言葉ではしばしば省略されます。この虚辞の ne は、この他に *avant que* と *à moins que* の後でも用いられますが、これについてはまた後で説明します。

最後に感情をあらわすときについて見ていきましょう。



接続法をとる「感情」をあらわす主な表現

que ...	「～は残念である」
que ...	「～は残念である」
que ...	「～するのは悲しい」
que ...	「～とは驚きだ」
que ...	「～に満足している」
que ...	「～してうれしい」

C'est dommage que tu me quittes.

きみが私と別れてしまうのは残念です。

Je serais content que tu viennes.

きみが来てくれたらうれしいのですが。

もっと知りたい！ Quelques infos en plus!

考えをあらわす動詞と接続法

penser, croire など考えをあらわす動詞が否定や疑問におかれた場合は、ふつう接続法を用います。

Je pense que tu as raison.

私はあなたの言っていることが正しいと思います。

→ **Je ne pense pas que** tu aies raison.

私はあなたの言っていることが正しいとは思わない。

Vous croyez qu'il est amoureux de moi.

あなたは、彼が私に恋していると思っています。

→ **Croyez-vous qu'il soit** amoureux de moi?

あなたは、彼が私に恋していると思いますか？

ここからは、2) の「従属節を導く接続詞句や前置詞句が、目的、譲歩、条件などをあらわすとき」について見ていきます。まずは目的をあらわすときについてです。



接続法をとる「目的」をあらわす主な表現

Il a parlé lentement **pour qu'**elle comprenne.
彼は彼女が理解できるようにゆっくりと話した。

先生、質問！

pour que と **afin que** はどう違うのですか？

日常のフランス語では **pour que** を使うのですが、それに対して **afin que** は改まった表現で、主に書き言葉で使われるのです。

Son père lui a tout raconté **afin qu'**elle sache la vérité.
彼女の父親は、彼女が真実を知るようにと全てを話した。

次は、譲歩をあらわすときについてです。



接続法をとる「譲歩」をあらわす主な表現

que ...	「～であるにもかかわらず」
...	「～であるにもかかわらず」
que ...	「～であるにもかかわらず」
que ...	「何を～しようとも」

Elle est partie à la montagne **quoiqu'**il fasse mauvais.
彼女は天気が悪いにもかかわらず山に出かけた。

先生、質問！

bien que, **quoique**, **malgré que** はどう違うのですか？

「～にもかかわらず」と譲歩をあらわしたいとき、**quoique** は普通のニュートラルな表現ですが、**malgré que** はくだけた口語的な表現で話し言葉で用いられ、**bien que** は改まった文語的な表現で書き言葉で用いられます。